【案】

知多都市計画公園の変更（美浜町決定）

1. 都市計画公園中、5・5・6号美浜町総合公園を次のように変更する。

種別	名称		位置	面積	備考
	番号	公園名			
総合公園	5・5・6	美浜町総合公園	美浜町大字北方 字吉田流、字十二谷 大字奥田 字十二谷 大字上野間 字石坂、字東寸田	約 16.9ha	

「区域は計画図表示のとおり」

2. 都市計画公園に6・4・●号美浜町運動公園を次のように追加する。

種別	名称		位置	面積	備考
	番号	公園名			
運動公園	6・4・●	美浜町運動公園	美浜町大字奥田 字奥田前、字谷 字至ル谷	約 8.8ha	

「区域は計画図表示のとおり」

理 由

美浜町におけるスポーツ・レクリエーションの拠点として、近年多様化する町民のニーズに応えるとともに、来町者向けの交流拠点となるよう整備するため、美浜町総合公園の区域を変更（拡張）し、地域住民等の利用に供するものである。

また、美浜町運動公園は、隣接する日本福祉大学と連携し、総合型地域スポーツ及び障がい者スポーツの拠点となるよう整備を行うとともに、発災が危惧されている南海トラフ地震に備え、防災機能等を配備した美浜町西部地区の防災拠点となるよう整備を行う。

理 由 書

1. 当該都市計画の都市の将来像における位置付け

(1) 第5次美浜町総合計画

公園・緑地の整備については、町民一人当たりの都市公園面積を現状の3.8m²/人から、目標の8.1m²/人に向けて整備を行うこととしています。

a. 美浜町総合公園

総合公園の交流拠点化を図ることで交流人口の増加と産業の活性化を目指すと同時に、若者のスポーツ離れの防止として、総合公園体育館を核とする周辺対策を含めた環境整備を実施することとしています。

b. 美浜町運動公園

知多奥田駅周辺地区は、住宅・商業ゾーンとして、利便性や都市機能を高めるだけでなく、景観や自然環境の保全にも配慮した整備を図り、また、日常の買い物需要に対応した商業機能や都市機能を高める整備を図るとしています。また、学園ゾーンとして、日本福祉大学と地域との交流をより深めながら、学園都市としての機能を高めるため、知多奥田駅周辺の整備を図るとしています。

(2) 美浜町都市計画マスタープラン

a. 美浜町総合公園

美浜町総合公園は「交流施設」として位置付けられ、町民や来町者など多くの方が集い・交流する場となっています。隣接する図書館、生涯学習センター、町民の森などと併せて複合的な公共サービス機能が集約されているため、面的な活用を含めた機能の活性化を図ることとしています。

b. 美浜町運動公園

奥田地域及び野間地域は、一人当たり公園面積が0.42 m²/人となっており目標値と大きくかい離しています。当該地区においては、河川の整備と合わせて、身近な公園の整備並びに防災機能など多目的な利用を踏まえた公園機能の確保が都市施設として求められています。

将来都市構造としては、「地域生活拠点」と位置づけられており、交通連結機能や商業機能の強化、都市景観の向上による利便性・快適性にすぐれた良好な生活空間の創出を図り、「交流拠点」の位置付けも含め多くの方が集い・交流する場としていきます。

(3) 美浜町緑の基本計画

a. 美浜町総合公園

当該地は、新しい緑の創出と、散策路・緑道による緑のネットワークを形成することで地域の連携を図り、にぎわいのあるまちづくりを推進することとしています。この方針のもと、公共施設緑地として、観光資源ネットワークの中心を担う広域的なスポーツ・レクリエーションの拠点であり、かつ、重要な緑地である総合公園を中心とした周辺整備、歴史資源、観光資源との連携がとれた整備が求められているとされています。

b. 美浜町運動公園

本計画地を含む地区は、「施設緑地の交流拠点」として位置づけされており、地区全体として街区公園、近隣公園をそれぞれ1箇所ずつ、新たに整備する計画となっています。

また、都市公園の施設として整備すべき緑地の目標水準（目標年平成32年）は、町全域で市街化区域として目標値8.04haに対して現況値3.04haで大きく不足しています。

このことより、施設緑地としての都市公園の整備が必要となります。

2. 当該都市計画の必要性、位置、区域、規模等の妥当性

(1) 都市計画の必要性

a. 美浜町総合公園

美浜町総合公園は平成元年度から整備を開始し、現在、体育館や野球場、テニスコート等の施設が稼働し、町のスポーツ・レクリエーションの拠点的な役割を担っています。上位計画での位置づけを受け、多様化する町民ニーズに応えるとともに交流拠点となるよう整備し、都市計画公園としてより質の高い施設となるよう整備を行います。

b. 美浜町運動公園

日本福祉大学の本拠地への移転から 30 年以上が経過し、その存在は単に経済波及効果だけでなく、広く社会に普及・定着し、美浜町のアピールポイントの一つにもなっています。平成 29 年度からは、新たにスポーツ科学部が設立されることとなっており、この資源を活かして上位計画の位置付けにもあるような「交流拠点」とするために、陸上競技場を含んだ都市公園整備を行います。

(2) 位置・区域の妥当性

a. 美浜町総合公園

当該区域は、南知多道路美浜インターに近く、従来の総合公園や隣接する町立図書館、生涯学習センター、町民の森との一体的な利用が可能であり、今回の整備は交流拠点としての機能を高めることとなります。

b. 美浜町運動公園

当該区域は、地域のブランドとも言える日本福祉大学と一体的整備を行うことで、それらによる相乗効果、波及効果が期待できます。

また、町の西部に位置する奥田地域には計画的に配置された一定規模以上の公園がないことから、公園機能と合わせて、災害時における救助の拠点場所、避難地及び防災空間としての機能をもつ都市公園の整備が必要となります。

(3) 規模の妥当性

a. 美浜町総合公園

当該地から離れた場所にあった第 2 町民グラウンド（廃止）の代替施設として野球場、サッカー場を整備するとともに、グラウンド利用者のための駐車場（借地の臨時駐車場を補完する台数も含む）等が整備できる規模を確保します。

b. 美浜町運動公園

日本福祉大学スポーツ科学部の開設にともない、わが国の障がい者スポーツ研究の最前線で活躍する教員の充実が図られ、パラリンピック選手の輩出から、障がい

者スポーツの普及まで幅広く障がい者スポーツにおける学術研究の場が生まれます。

2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、障がい者スポーツへの関心が高まりをみせている今日、全国に先駆けて、「障がい者スポーツのまち-美浜-」を掲げ、将来的に全国障がい者スポーツ大会等の誘致開催も視野に入れながら、当面愛知県大会の開催を想定した計画内容を設定します。

そのため、ナイター照明を完備した全天候型の日本陸上競技連盟公認トラック（400m×8レーン・第3種以上）やバリアフリーに配慮したクラブハウスを整備します。

また、区域の南側には、目標として整備すべき緑地を確保するために芝生広場や植栽等の緑地の整備を行います。